

危険有害性の分類	分類名称	分類基準に該当しない
	危険性	消防法上、可燃性固体類に該当する物質を 14.5%含有する。
	有害性	酸化クロム(Ⅲ)については、米国 ACGIH・日本産業衛生学会では物質的刺激性を有する他の化合物と同様の許容濃度(0.5mg/m ³)を設定している。 モノカルボン酸については、天然油脂類であるので有害性なしと判断される物質である。
	環境影響	酸化クロムについては微粒子ゆえ、排水に多量混入すると水質汚濁の可能性がある。また水圏環境生物に対する蓄積性が報告されており、魚類への濃縮性は低濃縮に区分されている。 モノカルボン酸については分解良好と判断される物質である。
応急処置	目に入った場合	目をこすったりしない。柔らかい布又は紙で異物を取り除き、その後水で洗眼し、必要な場合は医師の診断を受ける。
	皮膚に付着した場合	石鹸で洗う。
	吸入した場合	加熱使用時に蒸気を吸入した場合は、新鮮な空気のある場所に移し、必要な場合は医師の診断を受ける。
	飲み込んだ場合	口の中をすすぐ。大量の場合は吐き出させ、必要な場合は医師の診断を受ける。
火災時の措置	消火方法	風上から消火剤を火元へ放射する。
	消火剤	粉末・炭酸ガス・泡・砂など
露出時の措置	少量の場合	火気がある場合はすみやかに取り除き、引火を防ぐ。 ウェスで拭き取る。又は掃き集めて回収する。
	多量の場合	溶解時は土砂等で流出拡大防止を図り、冷却・固化後、拭き集めて回収する。
取扱い及び 保管上の注意	取扱い	炎・火花もしくは高温体との接近を避ける。 労働安全衛生法第 577 条にあるように、法は粉塵を発生する作業場を有害な作業場と認識し、粉塵の発生抑制のための作業の方法または機械の改善等必要な処置を講じることが事業者にも原則的に義務付けている。
	保管	火気・熱源より遠ざけるとともに直射日光を避けて保管する。水漏れ、破損せぬように注意する。

暴露防止措置	管理濃度	酸化クロムについて	文献なし
		モノカルボン酸について	該当せず
	許容濃度	酸化クロムについて ACGIH 米国産業衛生監督官会議勧告(1996年度版) TLV-TWA 0.5mg/m ³	
		モノカルボン酸について	該当せず
	設備対策	粉塵の発生がある時、又は加熱使用時には作業場の空気を汚染しないように局所排気装置、密閉化、または全体換気を適正に行うことが必要である。	
	保護具	通常の作業では不要であるが、必要な場合は次の物の着用品が好ましい。	
		呼吸用保護具	簡易防塵マスク・布マスク
保護眼鏡		ゴーグル型が好ましい	
保護手袋		ゴム手袋・軍手	
	保護衣	ゴム前掛・布前掛	
物理/化学的性質	外観等	緑色リキッド状	
	沸点	250℃	
	比重	2.70	
	溶解性	水に溶けにくい	
危険性情報	引火点	203℃	
	可燃性	天然油脂 14.5%含有により可燃性。 消防法：可燃性固体類	
	発火性 (自然発火性、水との反応性)	なし	
	酸化性	なし	
	自己反応性・爆発性	なし	
	粉塵爆発性	なし	
有害性情報 (人についての症例、疫学的情報を含む)	皮膚腐食性	なし	
	刺激性(皮膚・眼)	皮膚刺激性なし	
		ウサギの耳に 500mg を半閉塞適用した実験で刺激性が認められている。	
	急性毒性	酸化クロム >80-177mg/kg (oral-rat) モノカルボン酸 LD ₅₀ 23mg/kg (オクテカン酸マウス腹腔内投与)	
	亜急性毒性	データなし	
慢性毒性	なし		

	がん発生	酸化クロムについてはNTP、IARC等で、ヒトに対して発癌性を示す物質と記載されている。
	変異原生 (微生物、染色体異常)	酸化クロムについては、ラットに混餌投与した実験で、生殖能への障害と次世代での成長阻害がみられている。
	生殖毒性	データなし
	催奇形性	データなし
環境影響情報	分解性	データなし
	蓄積性	データなし
	魚毒性	データなし
	その他	
廃棄上の注意	<p>取扱い及び保管上の注意の項の記載によるほか、一般的な注意事項による。焼却処理は焼却炉で少量ずつ焼却する。本品は燃焼すると、一酸化炭素・二酸化炭素(炭酸ガス)・炭化水素を発生する。</p> <p>空容器に廃棄するときは内容物を完全に除去した後に処分する。</p>	
輸送上の注意	<p>取扱い及び保管上の注意の項の記載によるほか、一般的な注意事項による。使用容器はダンボール箱、金属缶、ポリ容器等を使用する。</p> <p>輸送及び運搬は輸送中にお互いに衝突して破損する事のないように、しっかり固定した状態で行う。容器は水漏れ・破損・投げたりしないように注意する。消防法可燃性固体類に該当するため火気厳禁とする。</p>	
記載内容の取扱い	<p>記載内容は現時点で入手できる資料・情報・データに基づいて作成しておりますが、含有量、物質化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象にしたものなので、特殊な取扱いの場合は、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。</p>	

以上